

## 『コーヒーから持続可能な暮らしを考える』セミナー



日本植物燃料株式会社  
三本木一夫  
kazsambongi@gmail.com

# 三本木 一夫

## Kazuo SAMBONGI

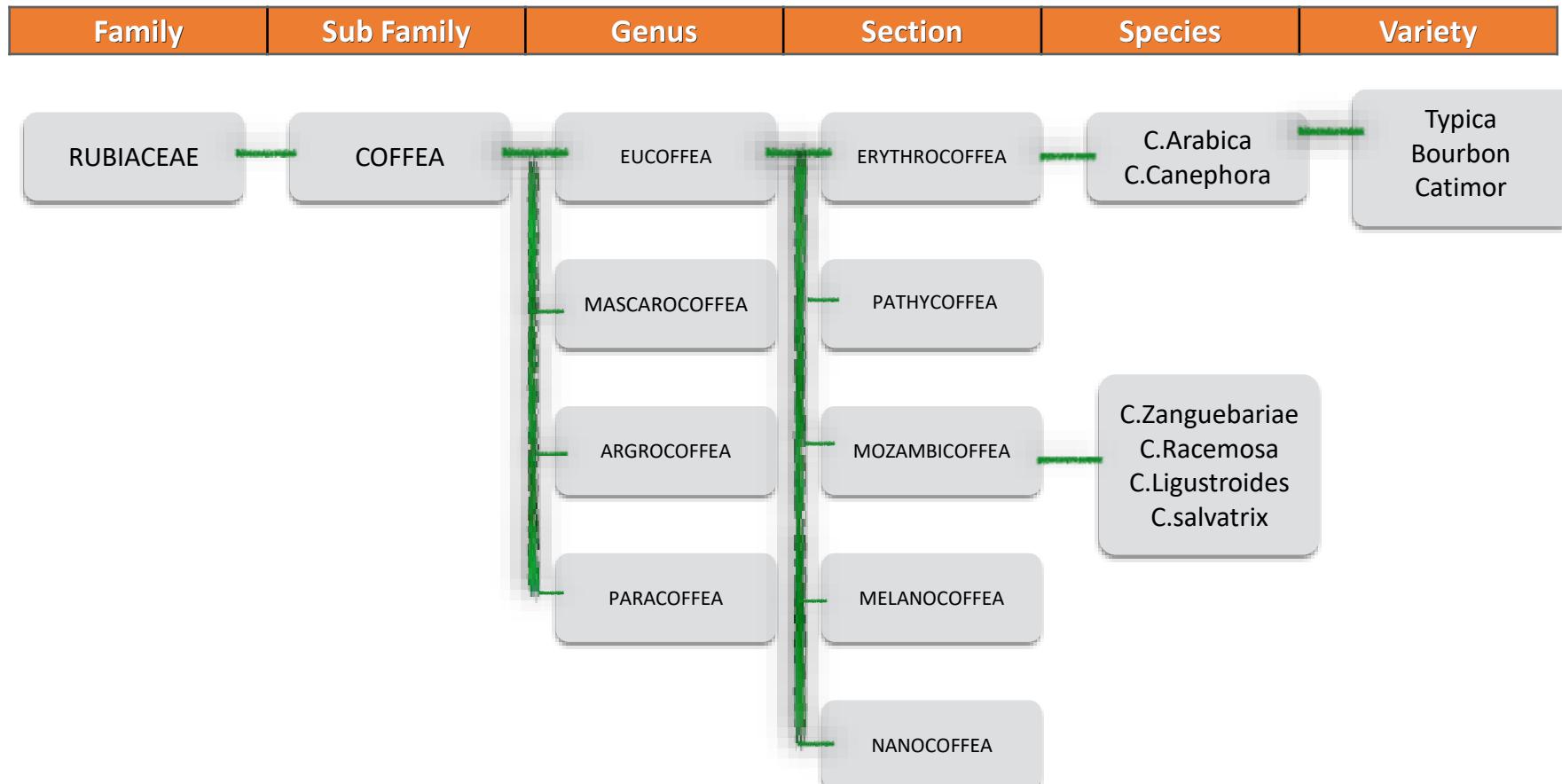
---

- 1957 生まれ
- 1980 神戸大学卒業
- 1983 神戸大学大学院農学研究科修了  
熱帯有用植物学研究室
- 1983 UCC上島珈琲株式会社  
ジャマイカ駐在、インドネシア駐在
- 1999 マダガスカル、レユニオンプロジェクト
- 2007 神戸熱帯農業研究所設立
- 2008 東京大学東洋文化研究所研究員
- 2009 日本植物燃料株式会社入社
- 2012 JICA-JST SATREPS (Jatropha)専門家
- 2019 JICA エチオピア、タイプロジェクトコーヒー専門家
- 2020 Good Coffee Farms アドバイザー
- 2021 国際日本文化センター研究員  
JICA ルワンダ ケニア コーヒー専門家  
日本熱帯アグリ研究会

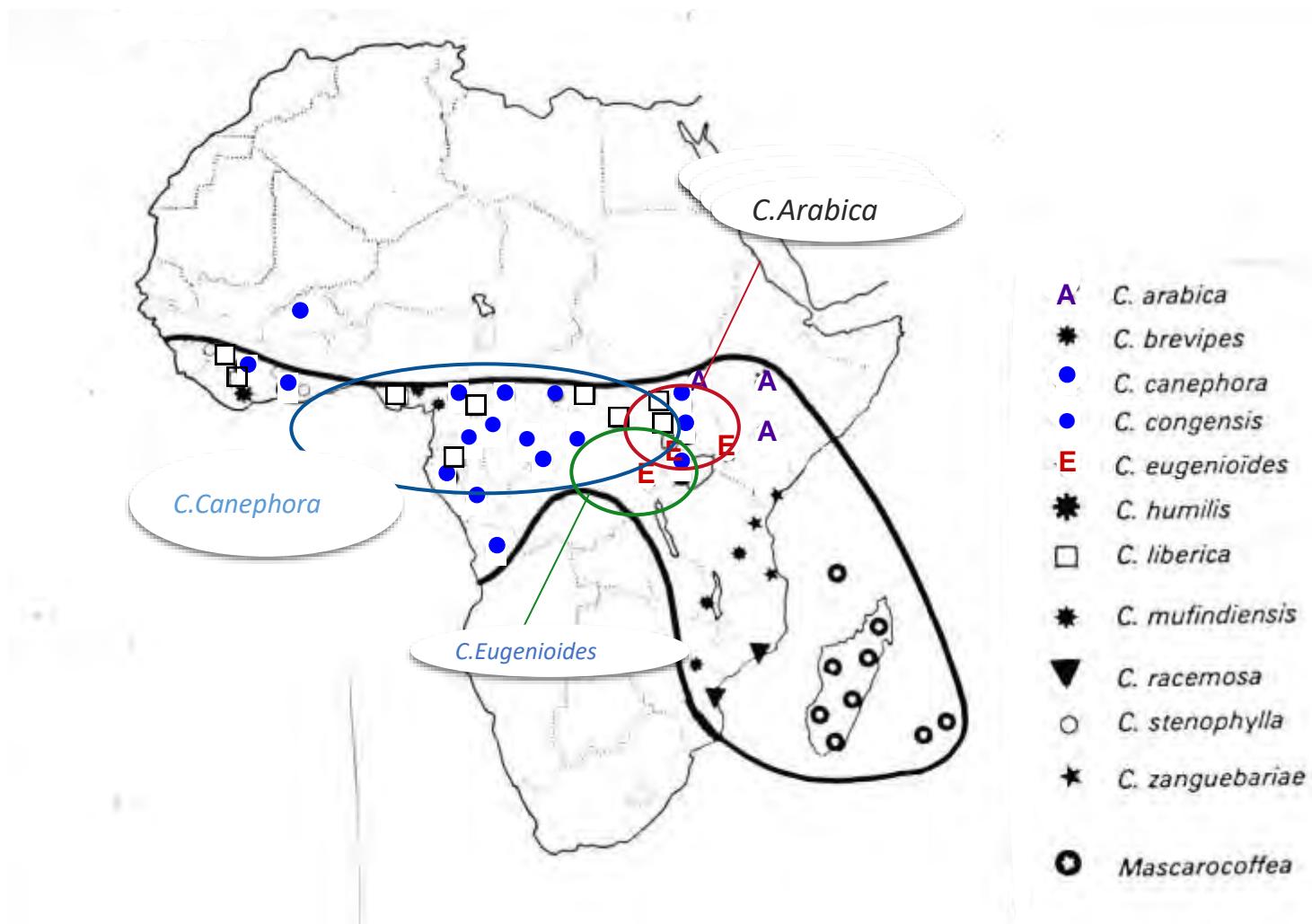




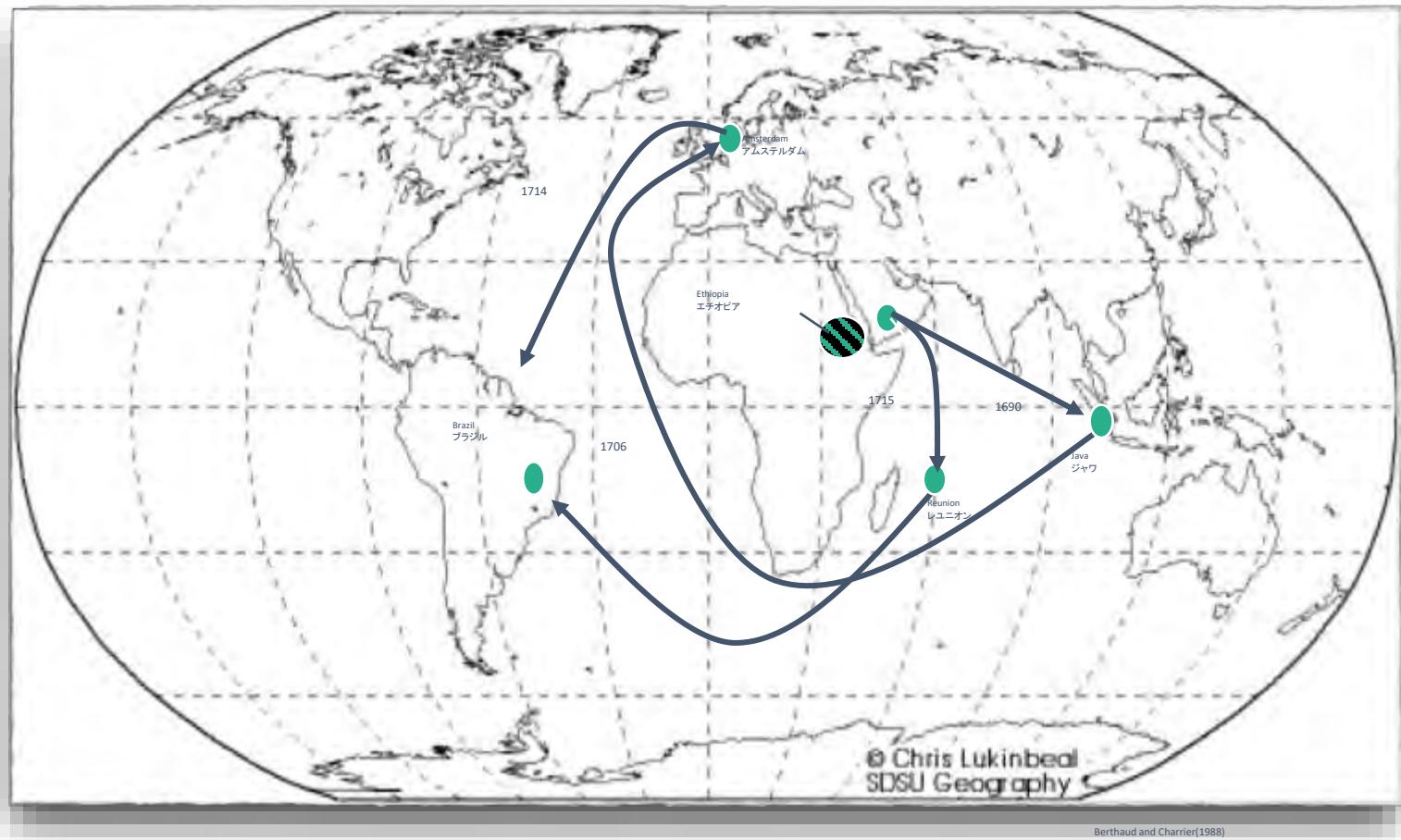
## Botany Classification of Coffee



# The Origin of Coffea



# History of movement and early cultivation of arabica coffee

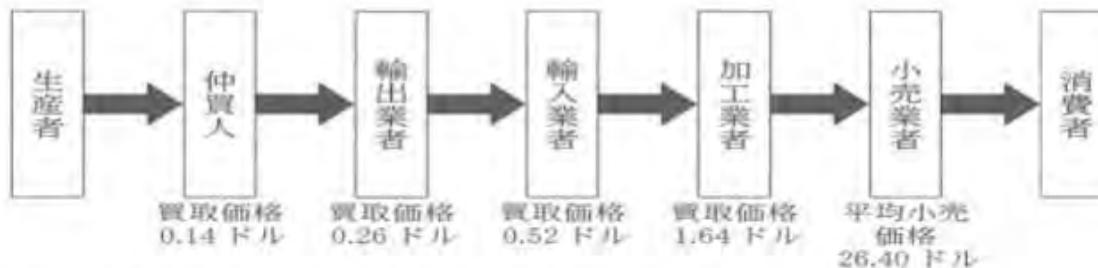


1876 小笠原 榎本武揚  
1882 沖縄 名護 大儀見

# コーヒーの流通過程

問 3 次の図2は、アフリカ産のコーヒー豆がイギリスで販売されるまでの流通過程と取引の価格を模式的に示したものである。図2に関連するところについて述べた文として下線部が適当でないものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

9



各段階での1キログラム当たりの価格を示している。  
オックスファム・インターナショナル『コーヒー危機』により作成。

図 2

- ① アフリカのコーヒー輸出国には、輸出金額に占めるコーヒーの割合が大きい国があり、国家の経済が世界的な価格変動の影響を受けやすい。
- ② コーヒーの取引価格は、消費国での流通過程において、上り上昇する。
- ③ 生産者の労働環境や所得水準を向上させるため、フェアトレードが注目されている。
- ④ 世界的な流通に長い歴史をもつコーヒーは、フードシステム(食料供給体系)を統括する拠点が消費国よりも生産国にある場合が多い。

# アラビカコーヒー相場の推移

## 米国コーヒー先物 概要

i



# サステイナブルコーヒーの定義

- サステイナビリティ(sustainability = 持続可能性)に配慮したコーヒーのことを、サステイナブルコーヒー(sustainable coffee)と言います。現在のことだけではなく未来のことも考えた上で、自然環境や人々の生活を良い状態にたもつことを目指して生産/流通されたコーヒーの総称です。環境保護団体を含むさまざまなNGOが、サステイナブルコーヒーの生産流通を推進する活動をおこなっています。生産地域の自然環境の保護や再生、減農薬/無農薬栽培の推進、生産者の収入の安定化、トランスポーテンシー(お金の流れの透明性)の確保、農園労働者の人権保護や生活環境の改善、トレーサビリティ(生産履歴)の確保など、重視事項やカバー範囲にそれぞれ特徴があります。

サステナブルコーヒー協会(2008発足)より

[suscaj.org](http://suscaj.org)



# レインフォレスト・アライアンス

- 2018年（2021年7月より監査開始）
- レインフォレスト・アライアンス（1987年）とUTZ（1997年）が合併
- レインフォレスト・アライアンス 土地の利用法、商取引の方法、消費者の行動を変えることにより、生物の多様性を維持し、人々の持続可能な生活を確保する。

参加農家数 194,294

販売実績 393,550トン

- UTZ 持続可能な農業が標準となる世界を作りだすこと。持続可能な農業は、生産者や労働者、そしてその家族が彼らの高い目標を達成し、世界の資源を現在そして未来にわたって保護していくことに寄与する。

参加農家数 309,048

販売実績 589,522トン

- 新レインフォレスト・アライアンス 責任あるビジネスを新しい標準とすることで、人と自然にとってより良い未来を創る。

# Fair Trade



- 1997年
- 途上国の生産者が貧困に打ち勝ち、自らの力で生活を改善していくよう企業・市民・行政の意識を改革し、フェアトレードの理念を広め、より公正な貿易構造を確立させる。
- 参加農家 758,474
- 販売実績 218,162トン

# Bird friendly 認証



- 1999年設立 スミソニアン博物館
- ミッション 渡り鳥の壮大な移動の現象を理解し、保全する。 森林破壊の脅威から最も質の高い渡り鳥の生育地保護を目的とする。
- 参加農家数 5100
- 販売実績 496トン

# 認証コーヒーの課題

- ・認証を取得するのにコストがかかる⇒販売価格に影響
- ・誰が費用負担？
- ・信頼性
- ・品質が重要
- ・コーヒー樹自体の健全性
- ・選択の指標

# Good Coffee Farms (グアテマラ)



- コーヒーの小農家と協力し、最高の品種を求める。プロセスに関わる全ての人の生活基盤も成長することでサステイナブルなコーヒーラインを作ること。
- CO<sub>2</sub>排出量ゼロ
- 水使用量削減
- 農家を支援



# SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年国連採択

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標

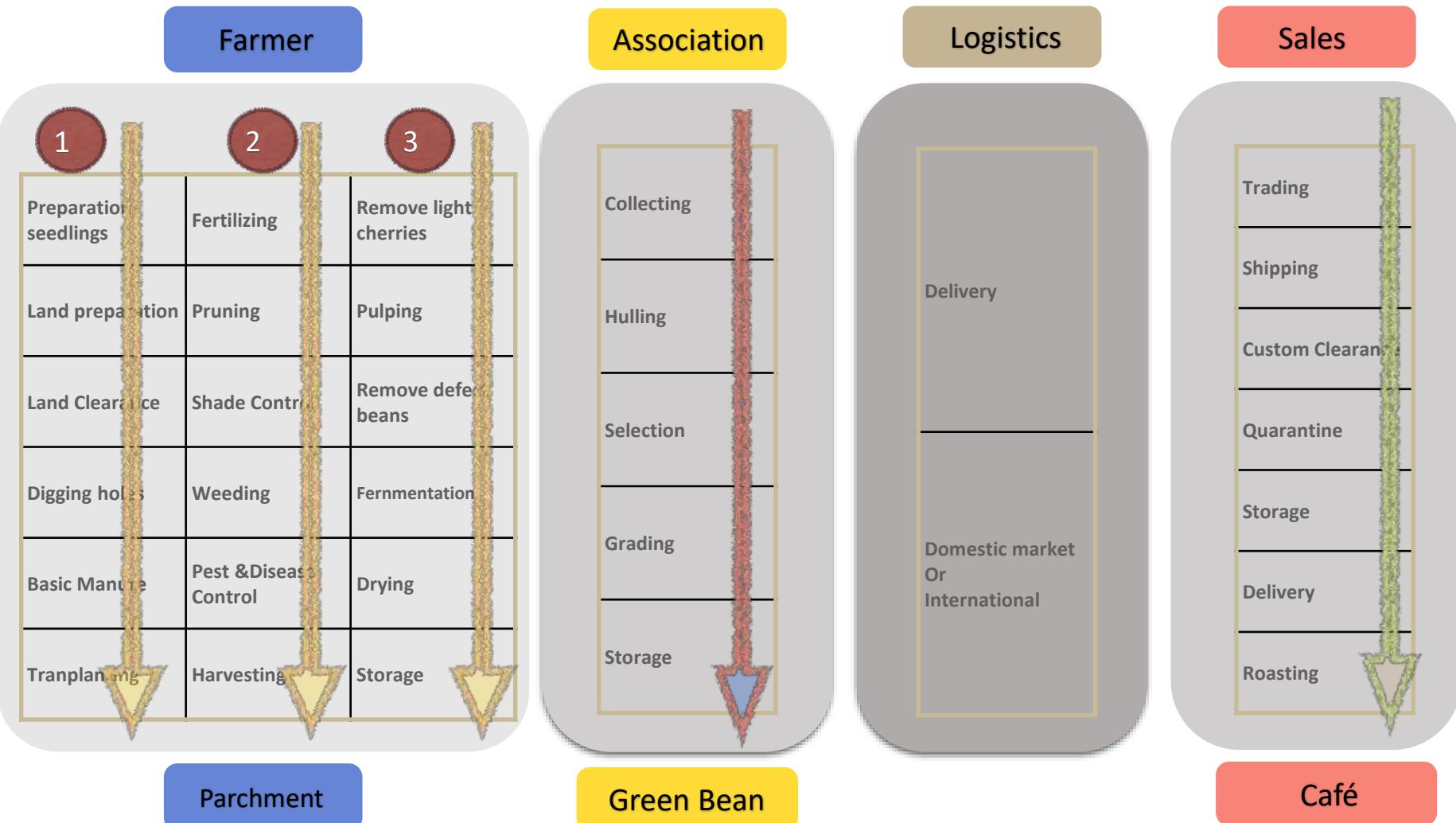
17のゴール・169のターゲット

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

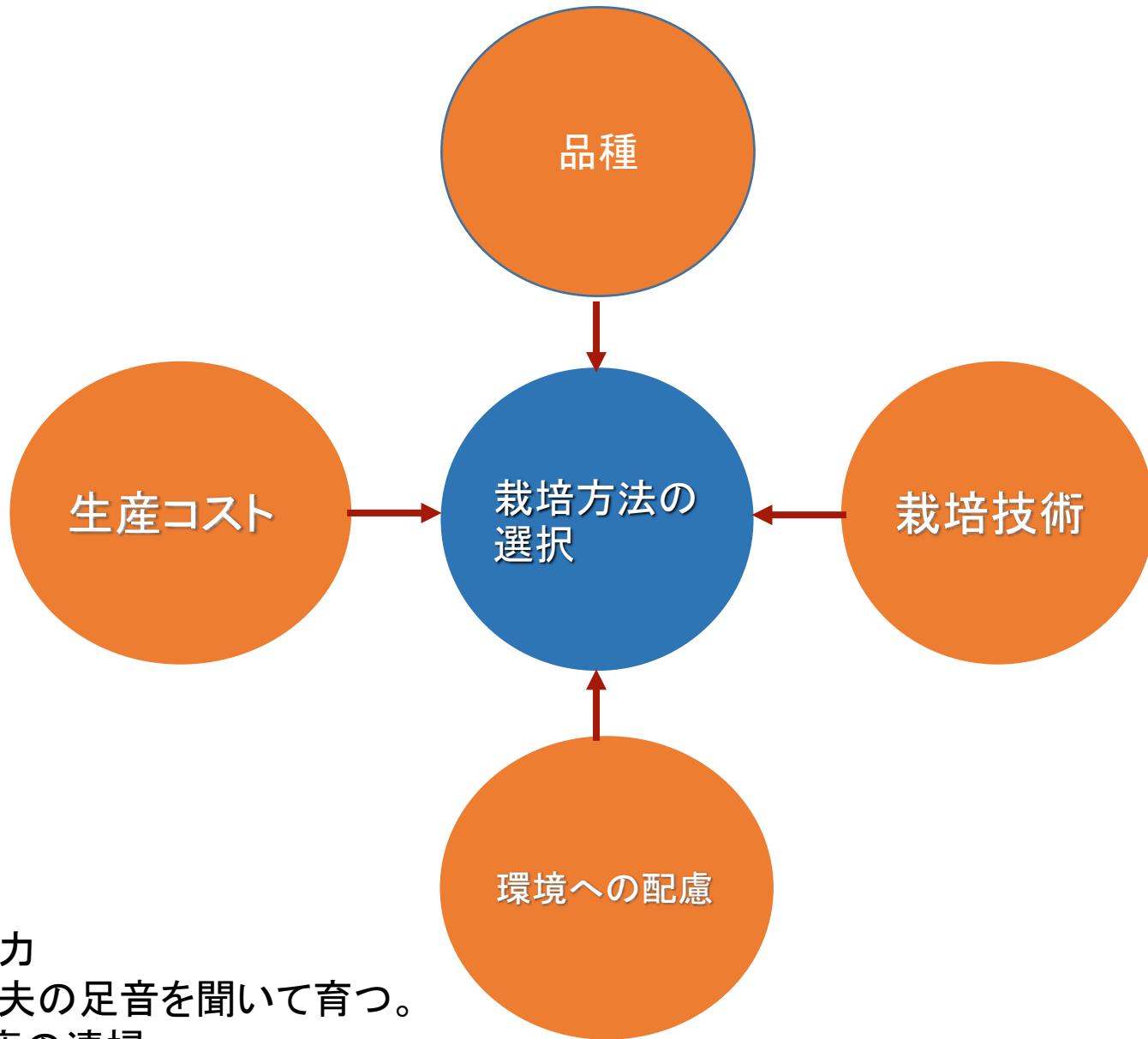
世界を変えるための17の目標



# Coffee Supply-chain



## Agronomistとしての栽培方法の選択



農家の努力  
作物は主夫の足音を聞いて育つ。  
農園、倉庫の清掃

# コーヒー2050年問題(地球温暖化対策)

- ・アラビカの生産量が半分になる
- ・病害虫対策 ⇒ 抵抗性品種  
(Catimor : Timor Arabica x Caturra )
- ・*Coffea stenophylla*
- ・健全なコーヒーに
- ・沖縄での取り組み



## タイ チェンマイ



## インドネシア・アチエ



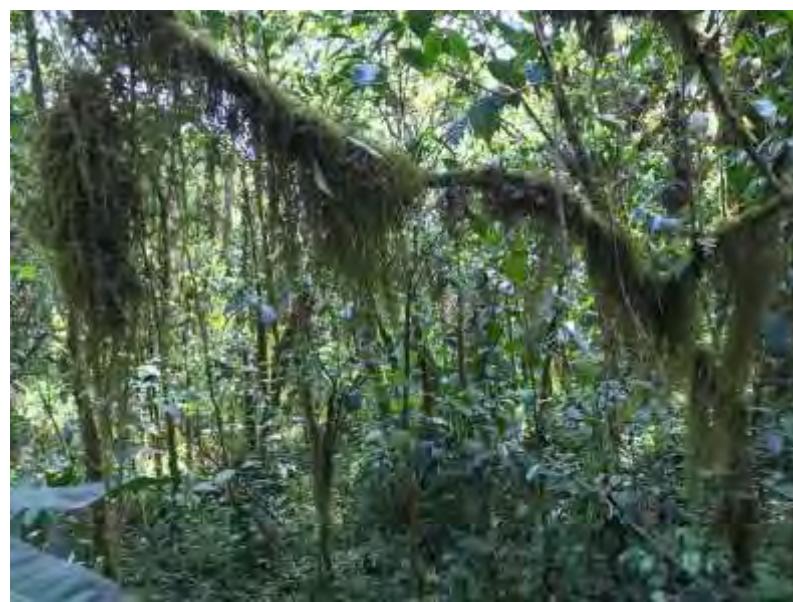
# ネパール



## ニューカレドニア



## エチオピア



# 沖繩

